

Comprehensive Assessment System for Building Environmental Efficiency

# CASBEE札幌



## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE\_Sapporo2016v1.0 | 使用評価ソフト: CASBEE札幌2016 (ver.1.2)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)トヨタカローラ札幌(株)澄川店	階数	3
建設地	札幌市南区澄川4条3丁目160-1	構造	S造
用途地域	近隣商業地域、準防火地域	平均居住人員	30人
建物用途	事務所集会所工場	年間使用時間	2,550時間/年(想定値)
竣工年	2018年2月 予定	評価の段階	実施設計段階評価
敷地面積	1,190㎡	評価の実施日	2017年8月1日
建築面積	910㎡	作成者	
延床面積	2,465㎡	確認日	
		確認者	



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 0.6** ★★☆☆☆☆

S: ★★★★★★ A: ★★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+2以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです。

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** **Qのスコア = 2.4**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.6

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.6

#### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.1

**LR 環境負荷低減性** **LRのスコア = 2.6**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 2.2

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.2

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.6

### 3 設計上の配慮事項

<b>総合</b> ・建物高さを10m以内とし、周囲の景観に配慮した建物としている。 ・敷地外に雪を出さない計画としている。		<b>A 省エネルギー</b> ・LED照明を採用し、エリア毎の点灯回路を分けた。
<b>B 省資源等</b> ・節水型の水栓、便器の使用。 ・外壁は工場製作のパネルとし、現地での廃材の抑制に配慮した。	<b>C 緑化</b> 札幌市緑の保全と創出に関する条例に基づく計画としている。	<b>D 雪処理</b> ・建物は無落雪屋根を採用した。 ・ロードヒーティングを敷設して、敷地外に雪を出さないように配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

CASBEE Sapporo2016v1.0  
 (仮称)トヨタカーラ札幌(株)澄川店

■使用評価マニュアル: CASBEE\_Sapporo2016v1.0  
 ■評価ソフト: CASBEE札幌2016 (ver.1.2)  
 欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点評価項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質								2.4
Q1 室内環境					-0.32		-	2.6
1 音環境				3.0	0.15		-	3.0
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.40		-	
1.2 遮音				3.0	0.40		-	
1.2.1 開口部遮音性能				3.0	0.64		-	
1.2.2 界壁遮音性能				3.0	0.36		-	
1.2.3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					-		-	
1.2.4 界床遮音性能(重量衝撃源)					-		-	
1.3 吸音				3.0	0.20		-	
2 温熱環境				2.0	0.35		-	2.0
2.1 室温制御				3.0	0.50		-	
2.1.1 室温				3.0	0.38		-	
2.1.2 外皮性能	省エネ			3.0	0.25		-	
2.1.3 ゾーン別制御性				3.0	0.38		-	
2.2 湿度制御				1.0	0.20		-	
2.3 空調方式				1.0	0.30		-	
3 光・視環境				2.6	0.25		-	2.6
3.1 昼光利用				1.8	0.30		-	
3.1.1 昼光率				1.0	0.60		-	
3.1.2 方位別開口					-		-	
3.1.3 昼光利用設備	省エネ			3.0	0.40		-	
3.2 グレア対策				3.0	0.27		-	
3.2.1 昼光制御	省エネ			3.0	1.00		-	
3.2.2 映り込み対策					-		-	
3.3 照度				3.0	0.16		-	
3.4 照明制御				3.0	0.28		-	
4 空気質環境				3.2	0.25		-	3.2
4.1 発生源対策				5.0	0.50		-	
4.1.1 化学汚染物質		F☆☆☆☆建材の採用		5.0	1.00		-	
4.2 換気				1.6	0.30		-	
4.2.1 換気量				3.0	0.33		-	
4.2.2 自然換気性能				1.0	0.33		-	
4.2.3 取り入れ外気への配慮				1.0	0.33		-	
4.3 運用管理				1.0	0.20		-	
4.3.1 CO <sub>2</sub> の監視				1.0	0.50		-	
4.3.2 喫煙の制御				1.0	0.50		-	

Q2 サービス性能				0.30	-	-	2.6
<b>1 機能性</b>				<b>2.5</b>	0.40		2.5
1.1 機能性・使いやすさ				1.5	0.40		
1	広さ・収納性			3.0	0.30		
2	高度情報通信設備対応			1.0	0.30		
3	バリアフリー計画			1.0	0.40		
1.2 心理性・快適性				<b>2.7</b>	0.30		
1	広さ感・景観 (天井高)		事務室の天井高さは3.0mとし、十分な広さ感を確保している。	5.0	0.30		
2	リフレッシュスペース			3.0	0.30		
3	内装計画			1.0	0.40		
1.3 維持管理				<b>3.5</b>	0.30		
1	維持管理に配慮した設計		ノンワックス床材の採用。	4.0	0.50		
2	維持管理用機能の確保			3.0	0.50		
<b>2 耐用性・信頼性</b>				<b>2.6</b>	0.30		2.6
2.1 耐震・免震・制震・制振				<b>3.0</b>	0.50		
1	耐震性(建物のこわれにくさ)			3.0	0.80		
2	免震・制震・制振性能			3.0	0.20		
2.2 部品・部材の耐用年数				<b>3.0</b>	0.30		
1	躯体材料の耐用年数			3.0	0.20		
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	省資源		2.0	0.20		
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	省資源		3.0	0.10		
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	省資源		3.0	0.10		
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	省資源	耐用年数30年以上の材料を採用。	4.0	0.20		
6	主要設備機器の更新必要間隔	省資源		3.0	0.20		
2.4 信頼性				<b>1.4</b>	0.20		
1	空調・換気設備			1.0	0.20		
2	給排水・衛生設備			2.0	0.20		
3	電気設備			1.0	0.20		
4	機械・配管支持方法			1.0	0.20		
5	通信・情報設備			2.0	0.20		

3 対応性・更新性				2.9	0.30	-	-	2.9
3.1 空間のゆとり				2.4	0.30	-	-	
1	階高のゆとり			2.0	0.54	-	-	
2	空間の形状・自由さ			3.0	0.46	-	-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性				3.2	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		構造体を痛めることなく更新できる。	4.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.38	-	-	2.1
1 生物環境の保全と創出		緑化		1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		緑化		3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.0	0.30	-	-	2.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	雪処理		2.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	省資源 緑化		2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	2.6
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	2.2
1 建物外皮の熱負荷抑制		省エネ		1.0	0.04	-	-	1.0
2 自然エネルギー利用		省エネ		3.0	0.12	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		省エネ	[BEI][tElm] = 1.01	1.9	0.60	-	-	1.9
4 効率的運用				3.0	0.24	-	-	3.0
集合住宅以外の評価				3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング	省エネ		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制	省エネ		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	-	
4.1	モニタリング	省エネ		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制	省エネ		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	3.2
1 水資源保護				3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水			節水型の水栓、便器の使用及び擬音装置の採用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				3.1	0.60	-	-	3.1
2.1	材料使用量の削減	省資源		2.0	0.11	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用	省資源		3.0	0.22	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	省資源		3.0	0.22	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	省資源		3.0	0.22	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材	省資源		-	-	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	省資源	構造体と仕上げ材が容易に分別可能となっている。	4.0	0.22	-	-	

3 汚染物質含有材料の使用回避				3.6	0.20		-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用			接着剤、塗料は有害物質を含まないものを使用している。	5.0	0.30		-	
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.70		-	
1	消火剤	省資源		-	-		-	
2	発泡剤(断熱材等)	省資源		3.0	0.50		-	
3	冷媒	省資源		3.0	0.50		-	
LR3 敷地外環境				-	0.30		-	2.6
1 地球温暖化への配慮		省資源		2.9	0.33		-	2.9
2 地域環境への配慮				2.7	0.33		-	2.7
2.1 大気汚染防止		省資源		3.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善		省資源 緑化 省電機		2.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				4.0	0.25		-	
1	雨水排水負荷低減	省資源		-	-		-	
2	汚水処理負荷抑制			3.0	0.33		-	
3	交通負荷抑制		十分な駐車台数を確保している。	4.0	0.33		-	
4	廃棄物処理負荷抑制	省資源 雪処理	分別ごみによる廃棄物保管庫設置している。	5.0	0.33		-	
3 周辺環境への配慮				2.1	0.33		-	2.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40		-	
1	騒音			3.0	0.33		-	
2	振動			3.0	0.33		-	
3	悪臭			3.0	0.33		-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				1.6	0.40		-	
1	風害の抑制			1.0	0.70		-	
2	砂塵の抑制			1.0	-		-	
3	日照障害の抑制			3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制				1.6	0.20		-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に溢れる光への対策			1.0	0.70		-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30		-	



Comprehensive Assessment System for Building Environmental Efficiency

# CASBEE札幌



## 重点項目 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE Sapporo2016v1.0

■使用評価ソフト: CASBEE札幌2016(ver.1.2)

1 建物概要				BEE	0.6	BEEランク	B <sup>-</sup>
建物名称	(仮称)トヨタカローラ札幌(株) 澄川店						
建物用途	事務所・集会所・工場						
延床面積	2,464.7 m <sup>2</sup>						

2 重点項目への取り組み		レーダーチャート
地球温暖化対策	<b>最重点項目</b> <b>省エネルギー</b> 	<p>★1=スコア20%以下                      ★2=スコア20%~40%以下                      ★3=スコア40%~60%以下                      ★4=スコア60%~80%以下                      ★5=スコア80%以上</p>
	<b>省資源等</b> 	
	<b>緑化</b> 	
	<b>雪処理</b> 	

3. 重点項目のCASBEEスコア							
<b>A 省エネルギー</b>		( 最高点 22.2 最低点 6.6 )			合計	10.4点	／22.2点
Q1 温熱環境	スコア	0.4	／0.8	LR1 建物外皮の熱負荷抑制	スコア	0.1	／0.7
Q1 光・視環境	スコア	1.0	／1.5	LR1 自然エネルギー利用	スコア	1.4	／2.4
				LR1 設備システムの高効率化	スコア	4.6	／12.0
				LR1 効率的運用	スコア	2.9	／4.8
<b>B 省資源等</b>		( 最高点 24.1 最低点 7.7 )			合計	13.7点	／24.1点
Q2 耐用性・信頼性	スコア	0.6	／1.1	LR2 非再生性資源の使用量削減	スコア	5.6	／9.0
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	1.1	／2.9	LR2 汚染物質含有材料の使用回避	スコア	1.3	／1.9
				LR3 地球温暖化への配慮	スコア	2.9	／5.0
				LR3 地域環境への配慮	スコア	2.2	／4.2
<b>C 緑化</b>		( 最高点 18.7 最低点 3.7 )			合計	7.8点	／18.7点
Q3 生物環境の保全と創出	スコア	1.1	／5.7	LR3 地域環境への配慮	スコア	1.0	／2.5
Q3 まちなみ・景観への配慮	スコア	4.6	／7.6				
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	1.1	／2.9				
<b>D 雪処理</b>		( 最高点 3.0 最低点 0 )			合計	1.0点	／3.0点
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	0.0	／1.0	LR3 地域環境への配慮	スコア	1.0	／2.0

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■重点項目の最高点は、各評価項目でレベル5で評価された場合の点数